

グリーン基調のコーポレートカラー制定

第一貨物



新塗装のトラックと武藤社長

15日に創立70周年を迎えた第一貨物(武藤幸規社長、本社・山形市)は8日、会見を開き、この20年を振り返るとともに、C Iに

00万円をロジスティクス事業が占める。経常利益は同25・1%増の10億400万円を見込む。発送トン数は90年度に比べ20・3%減の302万5000トと大幅に減少している。社員数は10年1月末で4584人と90年度より29・0%減少しているが、臨時社員は逆に2・5倍の1202人に増えている。この点を同社では、「品質面を考慮して、正社員と臨時社員の比率は一定の歯止めをかけている。100周年をにらんで、苦しくても採用を続ける」としている。

ついでの説明を行った。

同社の20年間の推移について武藤社長は、「41年に戦時統合で山形合同貨物自動車として発足し、現在は自社便で日発960便、札幌から兵庫までのネットワークをもつまでになった。しかし、ここ20年で情勢が大きく変化した。特に、物量・運賃・燃料などが当社を揺さぶっている。燃料費は89年の2倍となり、当社にとっては1年で4000万円のコストアップと、翻弄された20年だった。また、物流のすべてをアウトソーシングする動きがでてくるなど、マーケットの内容がドラスティックに変化して、トラック輸送事業は大幅に減り、当社でロジスティクス事業とよぶ保管や構内作業などが大幅に増えた」と述べた。10年度の推定の営業収入は前年比6・2%増の697億6200万円、うち20・8%の144億98

また、創立70周年を機に、新たにコーポレートカラーを制定した。同社では「地球環境を意識した経営」を第9次中期計画で掲げており、環境に加え、安心・安全をイメージした「グリーン」を主色に、「ブラック」と「ホワイト」を補助色とした。それに伴い、従来、黄土色とグレーだったトラックの塗色と、ジヤンパーやポロシャツなどの作業服や女子事務服もグリーンを基調としたデザインに変更する。また、トラックにプリントされ、イメージキャラクターとして長年親しまれてきた「像」に新たに「子象」が加わり、より親近感を強調した。武藤社長は、「社会一般から評価されるのが大事だ。量より質、それによって誇りがもてる会社に、そして立派な会社を目指す」と締めくくった。